(一) 第二百五十號 (木曜日) 明治四十二年十月廿八日 (日刊) 日曜及祭日の翌日休刊 (明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

▲兇漢は耶蘇教徒 兇漢ウ[illegible]チアンはカドリツク教徒にして曩さに韓國顧問スチーブンス氏を害せし者の一徒なり

▲露國士官負傷 兇漢逮捕の爲め露國士官一人負傷せり

謹みて 哀悼の意を表す

明治四十二年十月廿六日は抑も如何なる日ぞ、哈爾賓發の電音は東洋の天地を震撼せり、世界を驚倒せり、東洋平和の保障者偉大なる人道主義の權化、樞密院議長大勳位公爵伊藤博文卿が哈爾賓に於て、韓人兇徒の毒手に罹りて斃れたるの一報乃ち是れ也

公が今回の外遊は自ら聲明せし如く、唯任意の見學に過ぎざりしならんも、一は平生懷抱せる東洋の平和を堅實にせんが爲たるや明也、何ぞ圖らむ、此崇高なる平和主義の大政治家に不慮の遭難あらんとは、余輩は唯慟哭の外なし

公が東洋平和の爲に盡されたるの功勞は世界萬人の識認する所也、今回哈爾賓に於て流されたる血は全く東洋平和の熱血也公の鮮血は更に東洋平和に深き印象を遺せり、公の肉體は死せるも公の精神は長へに亡びず、遺靈亦以て瞑すべき也

極東に向つて野心を抱ける主權者及政治家は、公が如何に眞率誠意平和の獻身者さして斃れたるかを見て深く自己の心に顧る所あるべし公の死は此點に於て多くの教訓を含有す

公は曾て長白山頭埋骨を賦す然るに今や更に進で滿洲の野に瞑目す、余輩は感極り唯俯仰して哀悼の誠意を表す

前統監樞密院議長正二位大勳位公爵

故 伊藤博文閣下



●漢城便り

◉明治の元勳東洋平和の保障者たる博文伊藤公はハルビンに於て韓兇徒の手に斃られ候公の薨去は只り日本帝國の損失にあらず只り東洋の損失にあらず實に二十世紀現代世界の大損失に有之候。

◉公が第一世統監として韓國に臨み韓國上下の爲に日夜焦慮し人道の大義を以て三年有半の間韓土を照したるは世界萬民の知るところなり韓民豈之を知らざるの理あらんや而して今回の兇行が韓人に因つて行はれしことの如何にも不思議にして到底常識を以てしては兇行者の意志と目的とを解するに苦しみ申候。

◉韓半島を愛し韓民を愛し幷を保護養育すること恰も牝鷄の雛兒に於るが如くせしは伊藤公其人に候如何に物の解らぬ韓人とて慈父慈母とも見るべき其伊藤公に向つて兇器を振ひ其生命を奪ふとは言語同斷天罰を恐れぬ所爲と被考候返す返すも氣の毒なるは今回の兇行者が韓人なりしことにて余輩は今回の事に因つて列國人の韓人に對する同情の消滅せんことを恐るゝ者に候。

◉兇行者は我伊藤公の生理的生命を奪ひ去り候而れども公の精神的生命は却て生理的の死に因つて益々偉大と相成申候而かも其死所が東洋問題の中心なるハルビンなりしため公の死を一層意味深からしめ公の平和的精神を以て東洋の天地を蔽ふに到らしめ申候。

◉兇行犯人が自動的なりしか將た被動的なりしかは早晩判明することゝ被存候余輩は兇行犯人の教唆者若しくは連累者の無からんことを希望致候併し若し有りとせば其何人たるを問はず假借無く嚴罰に處するの當然なるを主張致候何となれば此種の犯行は或意味に於て民族的誤解を誘致するの大罪なるを以ての故に候。

◉余輩の推測を以てすれば今回伊藤公の昇天に因つて直接其影響を受くるものは我內政にして具体的に申せば政友會の動搖ならんと被存候由來政友會は公の創設に係り候西園寺今日迄之を主宰すと雖も實は公の威望に因りて斯く爲し來りたる者公にして此世を去る政友會は自然に分裂し其大部分は必ずや桂侯に赴くなるべし政界の變動今日より矚目に値するものあらんか。

◉嗚呼數日前大連に於て我大陸政策の根本義を闡明し奉天に於て支那官憲の頭腦に溫露を注ぎ正に數時間內に於て露國大藏大臣と洋々の懷論を交換せんとしたる我伊藤公は忽然として白玉樓中の人となれり余輩は公の今回の旅行が公が君國に對する最後の貢獻として完璧ならずとするも亦偉大なる功果を生ずべきを信じて止まざるなり

◉偉人は永遠に生く公の偉名や今より世界の靑史に登り人道の普及者平和の擁護者とし世界萬民の仰ぐべきところとなり地球に人類の存する限り大日本帝國の產出せし公伊藤の血を以て書殘したる東洋平和の四文字は人類幸福の福音として必ずや記憶せらるることならんと信ず。

▲伊藤公爵遭難詳報

東京電報

▲第一報　滿洲旅行中なる伊藤公は今朝ハルビンに於て韓人の爲めに暗殺さる（二十六日午後至急報）

▲第二報　滿洲旅行中の伊藤公は今二十六日午前九時三十分ハルビン停車場にて韓人の爲めに狙擊せられたり（同上）

▲第三報　伊藤公は三發の銃彈を受け何れも命中し目下危篤なり犯人は現場に於て逮捕さる（同上）

▲第四報　伊藤公はハルビン病院に於て療養中應急手當の甲斐なく遂に薨去せられたり（同日午後六時四十五分着）

▲第五報　伊藤公の遺骸は本日渾春に送り明朝大連に送り大連より軍艦にて直ちに横須賀に送還する筈（同日夜着）

▲右別報　伊藤公は今朝韓人五名に狙擊され二發腹部を貫通せり（同上）

▲隨行員負傷　川上哈爾賓總領事田中滿鐵理事森槐南の三氏も負傷せり

▲優詔を賜ふ　伊藤公遭難の趣天聰に達し　天皇陛下には深く御軫念遊ばされ優詔を賜はる（同上）

▲侍從武官差遣　陛下は西侍從武官を御差遣相成りたり（同上）

▲末松子爵急行　末松謙澄子は明日大連に赴く筈（同上）

▲韓皇儲御弔問　韓皇儲には伊藤公遭難の報に接し愛らしき滿面土の如く驚かせられ直ちに御附武官金應善を大磯に遣はし伊藤公夫人梅子を弔問せしめたり（二十七日午前八時二十分）

▲兇行韓人多數　伊藤公爵に危害を加へたる韓人は五六名にして致命傷と察せらるゝは腹部に受けたる一彈の貫通なり其他擦過彈數箇所あり（同上）

▲公遺骸大連着　伊藤公の遺骸は臨時列車を差向ひ哈爾賓より長春に向ひ更に滿鐵南行列車にて今朝八時大連着資彌東都督府高等官大連民政署長滿鐵理事以下社員並に在留民は停車場に弔迎し市中は寂として公の遭難を追悼せり（同日午後八時二十分）

▲韓皇儲の御使　韓皇儲は別に御使として侍從武官を大連に遣はし更に天皇陛下の御使と同行せしめ滿洲に差遣せり

▲東京市の驚愕　東京市中は伊藤公遭難の報あるや上下驚愕措く處を知らず元老各大臣各樞密院顧問官及在野政黨の往復頻々たり（同上）

▲勅使大連に急行　末松子爵、西紳六郎、渡邊皇宮主事、桂侍醫、小原主事、本鄉東宮附武官は本日午前八時三十分新橋發一行は佐世保より軍艦磐手にて大連に向ふ筈（二十七日午後着）

▲梅子夫人の卒倒　公爵夫人梅子は大磯にて伊藤公の兇難を聽きて卒倒し容態重く各大臣其他の見舞頗る多し

▲韓皇太子の驚倒　韓太子には公の遭難を聽かれ非常に驚愕して喜樂も出でず犯人の韓人なりと云ふに一層軫念あらせらる（同上）

大連電報

▲兇漢は元山より出づ　兇行韓人は元山より浦鹽を經て二十五日午後七時ハルビン驛に來れりと自白せり（二十七日至急報）

▲兇行韓人の扮裝　兇行を加へたる韓人の扮裝はセビロ服を着し一見日本人に疑なき扮裝を爲し居れり就縛の際も又取調の際も從容自若たり（同上）

▲加害者の連類捕縛　伊藤公の坐乘せる列車は嚴重に警戒を加へ既に兇行前夜則ち二十五日夜該列車の西河に通過の際にも拳銃を持てる二名の韓人を捕縛せり（同上）

▲露國公使の弔送　北京駐劄露國公使ホルツト氏其他露國官憲は喪服にて遺骸を長春驛迄弔送せり（同上）

▲東淸副總裁泣く　東淸鐵道副總裁ウエンチエル氏は今回の兇變は遺憾限りなし吾等の衷情を察せられよと暗涙滂沱として語り居れり（同上）

▲嗚呼藤公の讖言　伊藤公は二三日前より暗殺せらるゝは本望なりと小山技師に語り居れりと遂に此語の讖を爲したるは痛恨の至りなる旨同技師語る

▲伊公暗殺の兇漢　伊藤公爵を暗殺したる韓人は平壤の產ウンチアンなり（同上）

▲兇漢韓人の引渡　兇行韓人は露國官憲に於て嚴重の取調を爲したる後日本へ引渡すべしと（同上）

▲兇行實に一瞬時　七連發の內六發を放ち其時間僅かに一分時なりと（同上）

▲兇行當時の詳報　伊藤公一行昨二十六日午前九時ハルビンに着するや露國大藏大臣列車內に伊藤公を訪問し二十分談話交換の後川上哈爾賓總領事の先導にて一同下車し露淸兩國軍隊各國外交團淸露兩國文武官其他各歡迎團体の整列し居る前を步行し露淸大官各團代表者とも順次握手し日本人團体の整列せる場所より更に引返へさんとせる時露國軍隊の整列せる側より突然爆竹花火らしき音起る一刹那彈丸三發公の右腹背部に命中せるより中村滿鐵總裁直ちに伊藤公を抱き居る內露國官憲一同介抱して汽車內に運れ込み小山醫師用意の繃帶にて歡迎に來れる日本醫師二名露國病院より來れる醫師と共に應急手當を爲したるも三十分後絕命せり大漢は二十歲位の韓人にて兇器は七連發の拳銃なり先づ伊藤公を打ち次ぎに川上氏の右腕胸部を打ち森秘書官も川上氏同樣の射擊を受け又田中理事は右足を打たれたり兇漢は韓人にして伊藤公に壓迫せられたる恨を報ゐん爲めと語れり遺骸は二十六日午前十一時ハルビン發午後五時長春着六時同驛を發し今朝九時大連へ着せり（同上）

雜報

●伊藤公爵遭難彙報

▲飛電到來す　一昨二十六日午後東京電報は報じて曰く「滿洲旅行中の伊藤公は今朝ハルビン停車場に於て韓人三名に狙擊さる」と漢城の天地は爲めに震駭せり時恰も曾禰統監、各部大臣、統監府及各部高等官等は仁川港に於ける巡邏船觀覽の爲め下仁中なりしを以て一層の混雜を來たせり

▲ハ驛の狙擊　伊藤公には隨員一同を從へ豫定の如く二十六日午前九時といふに哈爾賓停車場に着したる處歡迎者の列にありたる數名の韓人は矢庭に伊藤公を目懸け短銃を連發したるに不幸恐むべき毒彈の二發は伊藤公の胸部に命中せり之れと同時に森宮內大臣秘書官、川上哈爾賓總領事、田中滿鐵理事等亦兇徒の毒彈を受けたるも致命の傷に至らず犯人は直ちに現場に於て逮捕したるが未だ其姓名を自白せずと

▲藤公の最後　三發の凶彈を負ひし伊藤公は直ちに同驛特別列車內にて應急の手當を施し日本總領事館に移し夫れより露國病院に收容されたるも遂ひに同院に於て薨去せり

▲遺骸の移送　公の遺骸は即日大連へ向け移送され昨二十七日長春、今二十八日朝大連着夫れより我帝國より回航せる軍艦に搭載され東京へ送らるゝ筈なり

▲統監邸混雜　下仁中伊藤公暗殺の悲報に接せし曾禰統監の一行は驚駭所を知らず急ぎ午後六時十分歸邸したるが大久保軍司令官、石塚長官事務取扱以下各參與官、李總理以下各大臣統監邸に參候して弔詞を述べ尙統監府の重なる諸氏は夜を徹して凝議する處ありたり

▲韓皇の弔電　伊藤公の訃を聞召されたる韓皇は直ちに閔宮內府大臣、尹侍從院卿を統監邸に遣はし親しく御弔詞を申上げ尙韓皇よりは左の御弔電を發したり

伊藤公爵へ宛

本日不慮の災難に罹られたるを聞き驚愕痛恨に堪へず茲に衷心の同情を表す

公爵夫人へ宛

公爵は本日哈爾賓に於て凶徒の爲遭難せられたるの報に接し驚愕痛恨に堪へず茲に衷心の同情を表す

我　天皇陛下へ

接本日伊藤公爵任哈爾賓爲凶徒遭難之報不堪驚愕痛恨玆謹表同情至意

▲弔使の急行　公が遭難の悲報に接し韓皇勅使尹侍從院卿、太皇帝同趙承寧府總管韓國政府代表者李總理大臣、曾禰統監代理曾禰寬治、統監府代表者鍋島外務部長外に韓皇よりの命を受けたる菊地大韓醫院長等は光濟號に搭じ大連へ向け急行せり因みて勝木同艦長は最速力を以て直航するも約二十五時間を要すべしと語れり

▲犯人の捜査　犯人は現場に於て直ちに逮捕されたるも未だ其姓名を自白せず而も其兇行の動機が那邊に存するや沓として不明なるが倉富法部次官は昨夜の統監邸に於ける會議に於て最も深き覺悟を有したる由にて尙中川地方裁判所檢事長は部員を隨へ別項弔使一行と大連へ向へり

▲京城の夜警　昨夜憲兵隊及び警視廳は非番巡査を召集して夜警の任に當らしめたるが深き意味あるものゝ如し

●太皇帝の御深憂　太皇帝陛下は昨夜御食事中伊藤公遭難の趣を侍從より聞召し御箸を投して食事を止め給ひ御顏色蒼然として嘆聲を發し俄かに寢室に引籠りア、心地惡しとて女官に藥を命じ何事か御憂慮あらせられたるやに承はる

●天皇陛下の御答電　吾が天皇陛下には韓皇より伊藤公遭難の御慰電に對し左如く御答電あらせられたり

伊藤博文の遭難に付き深甚の同情を寄せられたるは朕の感謝する處なり

●一進會の吊問使　一進會は伊藤公薨去吊問の爲め副會長洪肯燮及評議員一名を東上せしむべく本日午後決議せり出發は尙未定の由

●大韓協會の決議　大韓協會にては別報の如く伊藤公遭難に關し一進會と協議を凝らしたるが更に午後集會して同會を代表して統監を訪問し吊辭を述べ遺族へは鄭重なる吊電を發する事を決議したり其他今回の兇行は韓國民の意思に非ざる旨適當の方法を以て發表すべく決議し一進會と交涉すべしと

●記者團の決議文　一昨夜十時京城記者團は臨時集會を京城ホテルに催し伊藤公遭難に就て種々協議する所有りしが一同憤激措かず殆ど二時間に渡り强硬なる議論續出し意氣天を衝くの槪有りしが左の決議を爲し二時散會せり

伊藤公が韓人の兇手に仆れたるは排日思想の表現なりと認め將來の禍根を斷つため此際當局者が對韓政策の上に最後の解決をなさんことを期待す

吾人は韓國皇帝が伊藤公の遭難に對し直ちに日本に渡航し我が上下に謝罪せんことを期望す

尙時局の進行に伴ひ一大運動を開始の方針

●記者團總代統監訪問　時事新報特派員横尾信一郎、報知新聞特派員武田卓爾、大阪每日新聞特派員楢崎觀一、大阪朝日新聞特派員山本光三の四氏は京城記者團總代として今二十七日午後四時別項決議文を携し統監邸に曾禰統監を訪問せり

●李載崑氏の中途歸京　前學部大臣李載崑氏は仁川に於て伊公遭難の報を聞き展墓の爲め通津に赴く豫定なりし一昨夜俄に歸京したり

●首相以下の乘船　韓皇勅使趙民熙氏及び總理大臣李完用氏並びに鍋島書記官、鳥井通譯官、京城地方裁判所檢事正中川一介氏曾禰寬二氏其他隨行員一行は昨日午前九時四十二分仁川驛着列車にて下仁、信夫理事官其他官民の出迎を受けて稅關波止場に至りデーシ號にて沖合に碇船中の光濟號に移乘し今日午前十時同港拔錨遺骸出迎の爲め大連に急行したり

●統監邸の警戒嚴重　伊藤公暗殺の急電韓人間に傳はるや排日黨は拍手喝采して公の遭難を輕視し或者は曾禰統監をも暗殺すべしと放言したる由にて其筋にては特に統監府及統監邸の周圍を嚴重警戒せり

●參與官會議開會　昨二十七日午前十一時より統監府會議室に於て參與官會議を開催したるが小宮、倉富、俵、木內の參與官、並に松井局長、池田通信局長參席某々重要問題を議して午後一時散會したりと

●大臣會議の延期　昨二十七日開會すべかりし大臣會議は伊藤公の遭難に關する要務の繁多なる爲延期することゝせり

●西村判事の赴任　全州區裁判所判事に新任されたる西村義夫氏は明廿九日午前八時四十分南大門發列車にて赴任の筈なり

●岡軌政氏の退京　公州區裁判所判事の同氏は入京中の處一昨廿六日出發歸任せり

●大田居留民總代　豫て滯京中なりし大田居留民總代工藤勇次氏は一昨日歸田せり

●脇阪大尉の出發　滿洲獨立守備步兵大尉脇阪寬氏は一昨日奉天へ向け出發したり

●度支部技手入京　平壤度支部參政課長富家正義氏は廿六日入京界金旅館へ投宿す

●西頭烏致院總代　忠淸南道居留民總代西頭謙吉氏は一昨日入京原金旅館へ投宿す

近事片々

▲伊藤公の哈爾賓遭難は殆ど世界を驚倒せしめたらう公の鮮血は東洋平和の活文字

▲韓人には時々斯う突飛の兇漢あり

▲公の中和主義は世界萬人は認む

▲此平和主義の權化に兇行する者あ

▲韓人に取ては公は慈母たり

▲兇行を働く世に沒分漢程

▲一面より觀れば公は偉大の大政治家今此人を失ふ眞に哀惜

▲公の外遊により日淸露の國際關[illegible]なる好影響あるべきを期待せり今は總て夢

▲兇行韓人は直に逮捕されしと云ふ露國は如何に之を處分するかは先づ當面の問題

▲在外韓人には不逞の徒多し殆ど露國の臨無黨に等しき奴輩任す此處分方も肝要也

▲要之如斯韓人等が種々手段を取て排日行動をなすは日韓の關係が鮮明ならざる爲

▲何とか藥等を往生せしむるに非ざれば此種の兇漢此先きも起らん斷然の所置が急

▲平和の血によりて以來此種の兇漢を韓國より出さぬ樣に斷然たる處置を取りたい

▲韓人間には今尙帝國の保護圈外を脫せんと夢想する徒多し此感念が兇行の原因か

▲此輩をして斷念せしむるには明瞭なる解決をするが一番優柔不斷は種々の禍起る

▲大韓每日申報は伊公遭難の報に接して酒宴を開き万歲を唱へしとは鐵迄不埒千万

▲斯る非禮の奴輩は決して用捨すべからず是を見るも對韓政策の解決は急務ならむ

▲露國の官憲は此事件に對し如何なる態度を持する惟ふに隣交の誼を完ふすべけん

▲兇行者が韓人たる事明なる以上は帝國が韓國に對する今後の處置に列國同情せむ

▲帝國政府は今後韓國取締に如何なる所置をなすか何れ元老大臣の會議は開かれむ

▲韓皇も太皇帝も痛く驚愕せられしとは尤もの事其兇行者が自國人なるに於てをや

▲公の死は世界萬人の悲む所されど公の偉大なる人格は生きて長へに平和の擁護者

●伊公遭難と兩派

●京城民會の弔電

人の暴狀を憤ほり左の弔電を決議發送せり

伊藤公爵閣下御遭難の報を傳ふ居留民一

伊藤公の訃二十六日京城に傳はるや各國の外交團は何れも哀悼の意を表し同日は馬淸

府を訪ひて弔詞を送れり

●ハーバート氏は如何　密使事件の張本たりし米人ハーバート氏の

日刊(月曜及祭日翌日休刊)　明治四十二年十月廿八日　京城新報　(木曜日)　第二百五十號　(三)

注意す可き事なるが兩派の幹部連は本日早朝より大韓協會本部へ會合し鳩首凝議し居れり而して彼等の意向は孰れも冷然として兇行者は未だ其何者にして如何なる系統を有するや是を知る能はざるを以て頓かに之が方針態度を決するに由なし唯だ其兇行の公の遺族に送り更に統監を訪問する筈なり要するに今回の事件を以て政治的問題たらしむるや否とは日本の行動如何によりて決

京城居留民會は一昨日午後四時より決算審議會開會中偶々伊藤公遭難の報に接し孰れも深慨の語氣を以て公の兇變を悼み且つ韓同愛惜に耐へず謹で御見舞申す 因みに弔電は隨行の古谷秘書官宛發送せり

●外交團の統監府訪問

國總領事を第一着とし獨乙其他の各國領事は孰れも統監府を訪問し昨二十七日米國總領事バンカー氏其他重なる宣教師等は統監行動に就ては其筋に於ても夙くに注意を怠らず嚴重に監視を加へ居れるが昨日は朝來韓人及宣教師等の出入頻繁にして其談合の模樣に就ては要領を得るに由無し唯だ彼等が從來の行動に就ては何等疑ふ可ものなし

噫!!伊藤公爵(一)

伊藤公が胡風吹き卷るハルビンに於て韓人兇徒の毒手に仆れたるとの報は眞に世界を驚倒せしめた、殊に韓國は公とは一方ならぬ因緣を有するだけ夫れだけ人々の驚きも亦別格である。思へば全く夢の樣である、回顧すれば本年の夏統監職を辭退されたるとき、お分れのために京城に來られしときはパナマ帽にフロツクコートの瀟洒なる風采にて例により悠然として車上にシガーを燻らされ、意氣凜然壯者を凌ぐの風ありて見物の人々は口々に曾禰統監よりも若く見へると囁き合つた位である、矍鑠たる面影は今に尙は記者に髣髴として映じて居る、然るに今や異境に息絶へて、雄辯の唇閉ぢて笑はず、語らず、其靈は既に去つて神の手に歸る、人生五十年、七十は古來稀なりとは云へ、此老偉人が最早世を逝て再び歸らず。と思へば何人か悵然たらざるを得ぬであらう、眞に人生は夢の如しである。

記者は去る三十三年の春、始て公に接した事がある、夫れは公が大磯の招仙閣で演說したときである、傍に侍して演說の筆記を擧て後に滄浪閣に伺つたとき面のあたり接して僅かに言語をかわしたに過ぎぬけれども、實の處公の溫情に打たれた感がないでもなかつたが併し其當時記者は何となく傲然として小供扱にされたのが癪に觸つて其後は面會しよう抔との念は更に起らなかつた、而も其時支那の水筆を頂戴したのである、夫れや是やを思ひ起すと何となく懷かしい氣もする、爾來記者は公の政治主義が餘りに軟弱であると殊に對外意見に就ては常に反對の說を持して居つたのである記者は三十八年日韓協約當時に再度韓國に渡り來りて、公の統監政治を始より見たのである、面接したのは唯の一度であるが何となく因緣の深き樣な氣がしてならぬのである、是を以て尙更に公の死を聞きて哀惜に堪へないのである。

記者は是より其知り得る範圍に於て公が生涯の逸事及功過等を記して見たいと思ふ

公が一寒の書生として松下村塾に吉田松陰の薰陶を受けた頃より、木戸孝允の食客たる時代、井上聞太井上勝と共に竊かに英國に渡航したる時代より歸來大隈井上等と築地の梁山伯に豪飲放論一世を睥睨したる所謂公の最も活氣なる時の行動に就て評論的に書いて見るのも或は面白くないでもなからう

●韓人強盜逐に就縛

▲警視總監宅を襲ふ ▲贓品積で山の如し

今春以來韓人強盜の出沒酷しく地方の富豪を襲ひ或は市內の兩班高官等の目ぼしき家には片つ端から強盜押入り多額の金品を掠奪し其行動は常に同一にして神出鬼沒の如く妙を極め其筋にては被害者の屆出續々として至り遂に警察の下殆んど無警察の觀ありて良民は其堵に安んぜず夜など鼠の立騷ぐ音にも氣を配り戰々競々たりしが又候去る十月廿二日午前二時頃明治町若林警視總監官舍に大膽にも一人の韓人窃盜忍び入り巧みに家人の熟睡の際を窺ひ內房深く闖入し總監の華類及び洋服等を奪ひ泰然として一瞥を吳れ後白波と行衛を晦ましたるを翌朝家人の發見する處となり玆に大騷ぎを演じたるが總監は強盜の遣方の餘りに大膽なるに且つ驚き且つ侮辱されし無念遣る方なく直ちに部下を督勵し一方各警察署に通牒して非常線を張り洛中洛外を包圍して偵察檢擧に從事せしめしかど遂に逮捕に至らず一同地駄太踏んで無念がりしが殊に同廳の日韓刑事係は我先に搦め取り手柄にせんものと爾來晝夜兼行にて犯人搜索に努め殆んど寢食を忘れつゝありしが其効空しからず去る廿五日午後五時頃目星を着けし強盜犯人洋服を着し冬帽子を冠り人力車に乘りて南大門外通路を悠然に疾走し來るに出會せしかば豫て張込中の警視廳訊問課に其人ありと知られたる敏腕なる長山、河野兩刑事は小躍して車を誰何呼止め有無を言はさず同人を土地に引摺り下し難なく捕縛し本廳に引揚げたるが同人は口を噤みて語らず唯自稱忠淸道生れ朴聖七(三四)とのみ申立てたるが渠れは一見日本人紳士の服裝をなし其贓品の如きは多く京城居留の支那人某に賣却方を依囑し昨日まで發見せし贓品のみにても山をなし此見積價格三四千圓餘に上り尙續々贓品發見中にて目下引續き嚴重尋問中なりと云ふ

●借金を苦にして縊死

▲經理部附主計の馬丁

一昨二十六日午後一時三十分頃京城水道町三丁目居住陸軍御用商人立石定雄(三三)が銃獵の爲め梨太院東方の山中に立入りたるに年齡三十七八歲なる男子松樹に麻繩を懸けて縊死を遂げ居たるを發見し大に驚き龍山憲兵分遣所に馳着け此由を急報したるより同憲兵曹長醫師を伴ふて出張し檢視を遂げしが固より覺悟の自殺とて腹部を麻紐にて卷き斷末魔の苦しみに悶ゆるの醜態をば死後人に見せぬ用意にとや白紙を臀部に當て居るなど殊勝に見ゑしが死後十三時間を經過し最早蘇生の見込み無かりしといふ去れば檢視官は何心なく前記の立石に向ひ何か死人に關し心當りは無きやと問ひしに同人は昨夜吾が隣家を訪れし男の容貌に似たりと答ふるより檢視官は直ちに立石が隣人某に就き取調べたるに縊死者は果して同人の知人にて愛知縣東春日井郡品野村大字下牟田川八十三番地第六師團經理部一等主計山之城民平氏馬丁水野鐵之助(三七)と云ひ某とは淸國天津にて懇意になりし者なるが渡韓後一回某を訪ね來り縊死の前夜二回目に訪問して夜食の饗應を受け雨降り出でたれば是非一泊せよと某の強て留むるをも聽かで雨傘一本を借り受け立出でしが其際水野は放蕩の爲め金二百餘圓を費消して大に困難し居れりと語りたる由なれば自死の原因は多分負債を苦にしてならんといふ

豫告

本社は南大門より本町八丁目に至る各戶に就き不景氣挽回に關する意見を聽き之を簡單に綴り連日の紙上に紹介せんとす、此は頗る實益あると共に又頗る興味あることゝ信ずされば各戶の諸君は社員の往訪に對し遠慮なく意見を漏らされんことを希望す

京城新報社編輯局

●漁船の水攻火攻

福岡縣人福岸德次郎外二十五名は十一隻の漁船に乘り込み鯖漁の目的を以て慶尙北道德河郡東面沿岸に繫泊中暴風雨の爲め十月十九日午前四時全部顚覆し乘組員は辛ふじて上陸し船體は全部破壞せしが漁師豐福愛吉は顚覆前船中に火災を起したる爲め全身大火傷を負ひ上陸後間もなく絕命したり其他輕傷者七名を出し憲兵巡査は協力救護に力め愛吉の死體は派出所にて檢視を濟し火葬に附したりと

●暴徒續々自首

過般來討伐隊の派遣により其の首魁を失ひたる暴徒は身を寄するに所なき窮狀に陷り遂ひに續々自首するに至りしが全羅北道茂長分遣所に於ては十月六日より十四日に至る九日間に七十四名の自首者ありたる由なり

●職工同士の毆打騷

原籍德島縣平民當時京城壽町三丁目牧どみ方中宿武力職小林定次郎雇人森本孫三郎(二五)は一昨廿六日午後七時卅分頃同職加藤德次(二三)と相談の上同夜々業を爲す約束をなして小林方仕事場に出でたる處言語の行違ひより口論をれつ初め氣早の孫三郎は有合せの職用槌を以て德次の額及び眉尻に輕傷を負せ尙亂暴を働き居たる折柄南部署石野巡査巡廻し來り直ちに孫三郎を取押ぬ證據品を押取して本署に連行し嚴重取調中

●鴉甫家で撲り合ひ

仁川碇泊船櫻井丸の船夫朴鍋煥と云ふは一昨夜花町三丁目韓妓店金德元方にて遊興中の李不振と下らぬ事より喧嘩を初め撲り合ひの最中警官に引致され說諭放還せらる

●新町の健康診察

廿六日新町遊廓娼妓の健康診察を行ひたるに受診總數百七十四人にて內入院休業等を除きて健康者は百五十八人なりき

●一昨夜の新町

遊廓の登樓客は總計九十六人にて此散財額五百二圓九十五錢なり

●福井茂兵衛優(二)

▲當地壽座に出演する

止むなく這度は講談落語界に足を踏み込み五明樓玉輔の門弟となり寄席の高座に現はれて駄洒落の間に諷刺的演說を試み、獨り浮世は三分五厘と相場を極めて暢氣に構へて居ると世は何時の間にやら驚くべく進步して迚も自分の樣な不眞面目は處世法では生存の程も覺束なくなつて來た、そこで可い加減に夢を醒まさなければ飛んだ憂目をみるだらうと氣付いたから急に心細くなつたのでフツツリと氣を入れ替へ東京を辭して橫濱羽衣町の辨財天の神官となつた、久しく漫弛い生活に馴れた僕が一轉して柄にない東帶といふ窮屈な扮裝に變つたのですからその厭さ加減と言つたらありませなんだよのみならず辛い思ひをして耐へ忍んだ處で神官では到底發展の見込みがない、將來大活動を試みるには怎しても實業界に身を投ずるのが一等捷徑であると考へたから善は急げと早速斷めて商家に這入り絹糸の研究に掛つた、處が丁度幸ひ養蠶の本場たる長野縣に且つて見知り越しの中山信安君が居られると聞いたので喜んで此人を賴つてゆき、中山君の紹介で更に田中平八氏の經營せる長野縣製糸場へ出勤するやうになりました、いよ〳〵實地にその局に當つたから天晴美事な絹糸を產出し大に實業界に雄飛しやうと日夜寢食を忘れて種々工夫を凝らし研究を積んだが、悲しい事には僕は學問が足りない、歐米諸國の進化せる機械を參酌したいと思つても明盲では仕方がない、怎んな邇梅では舊來の方法をそのまゝ固守して行くのならいざ知らず、迚も日本の產物として誇つて外國へ輸出するやうな絹布を織り出すことは全然不可能のである、だから什麽しても根本は學識がなくては駄目だと悟つて決然この地を辭し東京に歸つて中村敬宇先生の設立せる小石川の同人社へ入學し三ケ年程修學しました、その間には色々の友達と附合ひましたが諺に言ふ朱に染まれば赤くなるで知らず〳〵實業思想は遠ざかつて書生氣質に感化れ、政治の是非を論じ施政方針の批評に憂身を窶すやうになつたのです、と申すと結局以前は生存競爭の結果、餘儀なき事情の爲め實業界に身を

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十月廿八日 舊九月十五日 三碧大安辛酉と づ△一白● 金錢に關する業務には吉其外平穩△二黑● 紛爭及過失生じ易し新事見合の事轉居營業は差支なし△三碧● 人より容疑にあふあり或は誹謗甚るべし旅行を案ずなかれ波瀾の虞れあり親しき間にも禮儀を缺く婚姻集團結社凶△四綠● 競爭競合等には細密の驅引なければ不利を受くるの象あり△五黃● 盜害紛爭避くべし建築動士には吉△六白● 障害多き日創始改易の事凶尙旅行見合すべし△七赤● 衰運の日なり新事見合せの事建築農業には吉△八白● 徒勞に歸し易し金談取引談判相談効なし△九紫● 顯進の日大抵吉入學門婚姻養子舟下し等大に良好

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し

京城相生町（南門湯横）

各種洗濯石鹸 專門製造販賣

用途
陸軍、鐵道、船舶、鑛道、鑛山、水道湯屋
散髪、諸工業用

京城旭町二丁目（電話九七三番）

朝日石鹸製造所

神戸資生分院

京城梅毒病院

◎花柳病專門附、痔一般（注射療法）
●入院隨意● 院長 醫學得業士 廣田耕平

大根大賣出

澤庵漬用大根
漬物用白菜

農商工部園藝模範場御拂下品 自園栽培

並に●鹽●糠●各種子●農具一式
例年の通り品質特撰の上廉價を以て販賣仕候間續々御用命之程願上候現品配達は來る廿五日より開始仕候追て御希望に依り漬込の御依囑にも應じ可申候

京城本町一丁目（長谷川町筋）

三輪商會 電話三八六番

明治廿年七月創立● 京城代辨店 本町四山口呉服店 電話九番

東京海上運送保險株式會社

資本金一千萬圓● 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

開院廣告

十一月一日より開院 毎日午前九時より午後四時迄診療に從事し
尚入院の需めに應す

內科 前仁川病院長醫學士 松村三省

小兒科 診療時間自午後一時至同四時

外科 花柳病科 前漢城病院長ドクトル・メヂチーネ 和田八千穗

同 眼科内科 耳鼻咽喉科 自午前九時至正午 東京醫科大學選卒業科 瀧澤喜太郎

醫學得業士 赤羽學

婦人科 當分毎月四回（一日、五日、十五日、廿五日） 醫學得業士 天ケ瀨健六

龍山居留民團囑託 龍山榮町（文平山麓） 龍山醫院

諸紙 文具類 和洋帳簿

其他雨傘並ニ印入傘御注文ニ應ス精々安價販賣可仕候多少ニ不拘御用命仰付被下度候

京城南大門二丁目

美濃久紙店

●電話開通 八百二十五番●

唐津石炭 直輸入商

並ニ平壤無煙炭あり

京城太平町一丁目九五 南大門高等女學校裏通り

近藤商店

移轉廣告

今般業務擴張の爲め從來の明治町三丁目家屋にては手狹を相感じ候間左記に移轉いたし候

京城壽町（商業會議所東横）

和田質店

暖爐各種

廣告



煙突取付並ニ煙突掃除大勉强

京城本町五丁目角一番戶 電四七一番 馬木勇吉

龍山山下町兵器廠官舍道入口 電三六四番 馬木支店

菊花觀覽御案内

弊樓儀例年の通り菊花培養致候處特に本年は從來曾て見ざる珍花數百種を輸入し今や滿開致し居り確かに御一覽の價値有之候に付日中は御婦人方御同伴御散步旁御隨意御來觀被下度御案內申上候

京城新町 第一樓 本支店

消毒 牛乳 蒸氣

京城大和町一丁目 電話一三三

平山牧場

新形流行 御羽織紐 金銀帶〆

弊店の製造品は說明を要せす自ら能く之を語る

御注文の節は遞送無料にて御送致申候

東京淺草公園馬道一の廿八

三角堂栗原組糸店

貨物運送取扱 稅關貨物取扱 貨物引換證發行
危險擔保附運送 品代金付貨物運送

內國通運株式會社

京城支店 京城南大門驛前 電話一七九番 電話七〇八番

仁川出張所 仁川驛前 電話一五一番

釜山出張所 草梁驛前 釜山驛前 電話五一六番 草梁驛前 電話六三七番

龍山派出所 龍山驛構內 電話二〇六番

祝開業三週年●

江湖御客樣方の御引立に預り日ましに繁榮に赴き誠に難有仕合に奉存候就きましては本年は恰も開業三週年に相當致候得者自祝の意を表する爲め當分の內左記之通り特別大勉强仕候間賑々敷御光來の程伏して奉待上候あらあら可祝可祝

會席二膳附 並等壹圓 上等壹圓半 特等貳圓

但御酒は上記代金の內にて召上り次第

尚々十人以上の御宴會は御人數に應じ代金なしにて相應の藝妓をして御座敷を斡旋致させ申候

京城大和町三丁目 電話七三五

梅の家

大 命 薫

特約販賣 自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店

和洋酒、◎の精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候（電話二五一番）

とろゝ汁 一 拾貳錢

麥飯 一 五錢

會席御料理 御一人前 金五十錢

吸もの、さしみ、口取 外二品御酒一本付

京城曙町（元大韓日報社跡二階建）電話取次千四十二番

俵すし

松善

折詰御辨當及出前は特に勉强御調進可申候間多少とも御注文希申候

日韓印刷株式會社

營業科目

活版、石版、銅版、各種印刷、帳簿裝釘、書籍、製本及ビ印刷諸材料販賣

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候

本社 京城明治町三丁目 電話三三三番

出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

會席御料理 御一人前 肴四品付酒二本 金六十錢

すき燒其の外應御好

京城竹園町一丁目

遊樂樓（元三遊樓跡）

入院隨意

內科 外科 小兒病科 梅毒淋病

京城曙町三丁目 高井醫院 電話（二二六）

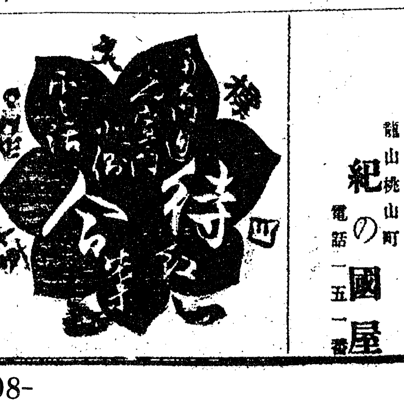
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

開業御披露

弊店儀今般一樂樓跡にて開業致候に付ては客室の裝飾を始め其他改善を加へ且つ懇篤に御扱ひ申候間何卒賑々敷御來遊被下度伏して奉願上候敬白

龍山桃山町

紀の國屋 電話一五一番



三一館

焦心單志多年爲斯道難[illegible]
奧旨恍然似有得者[illegible]
[illegible]

易斷觀相 敎授 京城本町五丁目 館主 土御門派大[illegible]

◎ 牛乳 純良 消毒 檢查濟

韓國畜産株式會社

南大門外（電話八八番）

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店 仁川海岸通 電話三九番 郡回漕店

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 十一月

●大連、太沽行 高砂丸 十一月十八日正午時出

●大連、大沽行 山東丸 十一月九日午前四時出

●大連、大沽行 酒田丸 十一月四日正午時出

●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行 立神丸 十一月 午後出

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金四十錢 三ヶ月 六ヶ月前金 郵税一ヶ月金

●廣告料 五號活字十九字詰一行 一回金五十錢 前金

發行兼編輯人 高木久太郎

印刷人 久納一郎

發行所 京城新報社